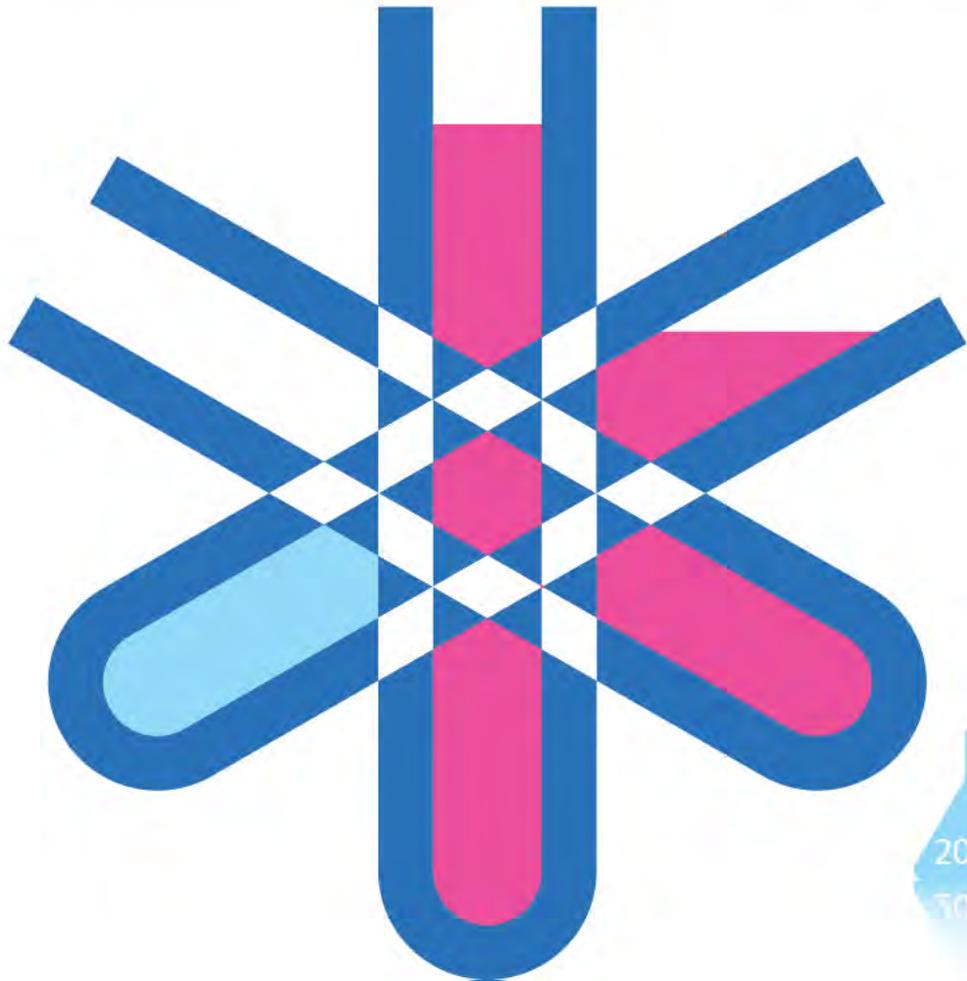


# 検査情報月報



2018  
9月

横浜市衛生研究所

# 平成30年9月号 目次

## 【トピックス】

食品中の動物用医薬品検査結果(平成30年4月～7月) .....	1
アレルギー物質を含む食品の検査結果(平成30年7月) .....	3
海水浴場水質調査結果(平成30年度) .....	6

## 【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 8月 .....	7
-------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	11
---------------------	----

# 食品中の動物用医薬品検査結果(平成30年4月～7月)

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、平成30年4月から7月までに健康福祉局食品専門監視班が収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。

4月に市内を流通している畜産食品13検体(牛の筋肉2検体、牛の脂肪2検体、豚の筋肉3検体、豚の脂肪3検体及び鶏の筋肉3検体)について、検査を行いました。その結果、表1に示すとおり全ての項目で不検出でした。

表1 畜産食品中の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果					検出限界
	牛の筋肉 (2検体)	牛の脂肪 (2検体)	豚の筋肉 (3検体)	豚の脂肪 (3検体)	鶏の筋肉 (3検体)	
<b>【合成抗菌剤】</b>						
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファジメトキシ	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファドキシ	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファモノメトキシ	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
<b>【内寄生虫用剤】</b>						
イベルメクチン	-	N.D.	-	N.D.	-	0.005
エプリノメクチン	-	N.D.	-	N.D.	-	0.005
モキシデクチン	-	N.D.	-	N.D.	-	0.005
フルベンダゾール	-	-	-	-	N.D.	0.002

単位:ppm N.D.:不検出

5月及び7月に、市内流通品の収去及びインターネットで購入した魚介類等17検体(さけ目魚類(ギンザケ2検体及びサーモン3検体)、すずき目魚類(ブリ1検体及びマダイ1検体)、その他の魚類(ヒラメ5検体)、甲殻類(エビ3検体)及び魚介類加工品(ウナギ蒲焼2検体))について検査を行いました。これらのうち、ヒラメ1検体から検出されてはならない合成抗菌剤のフラゾリドンが0.013ppm検出されました(基準値 不検出)。他の食品は表2に示すとおり全ての項目で不検出でした。

表2 魚介類中の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果					検出限界
	さけ目 (5検体)	すずき目 (2検体)	その他魚類 (5検体)	甲殻類 (3検体)	加工品 (ウナギ蒲焼) (2検体)	
<b>【合成抗菌剤】</b>						
マラカイトグリーン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
ロイコマラカイトグリーン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
ニトロフラントイン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	N.D.	N.D.	N.D.(4件) 0.013(1件)	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	N.D.	N.D.		N.D.	N.D.	0.001
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロビドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
<b>【抗生物質】</b>						
オキシテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.0005

単位:ppm N.D.:不検出

【理化学検査研究課 微量汚染物担当】

# アレルギー物質を含む食品の検査結果(平成30年7月)

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている食品原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高いもの7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品にこれらの特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造・調理施設での混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーをもつ人がその食品を食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難などのアレルギー症状を引き起こし、中には死に至るケースもあります。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品の検査を行い、食品の安全を確認しています。

平成30年7月に健康福祉局食品専門監視班がインターネットで購入した食品について、卵、乳、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

## 1 卵の検査

原材料に卵を使用していないとされる食品8検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

検体名	検体数	陽性数
菓子類	2	0
冷凍食品	2	0
弁当・そうざい類	1	0
レトルト食品	1	0
たれ類	1	0
生めん	1	0
合計	8	0

## 2 乳の検査

原材料に乳を使用していないとされる食品8検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果

検体名	検体数	陽性数
菓子類	4	0
冷凍食品	2	0
レトルト食品	1	0
たれ類	1	0
合計	8	0

### 3 小麦の検査

原材料に小麦を使用していないとされる食品8検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

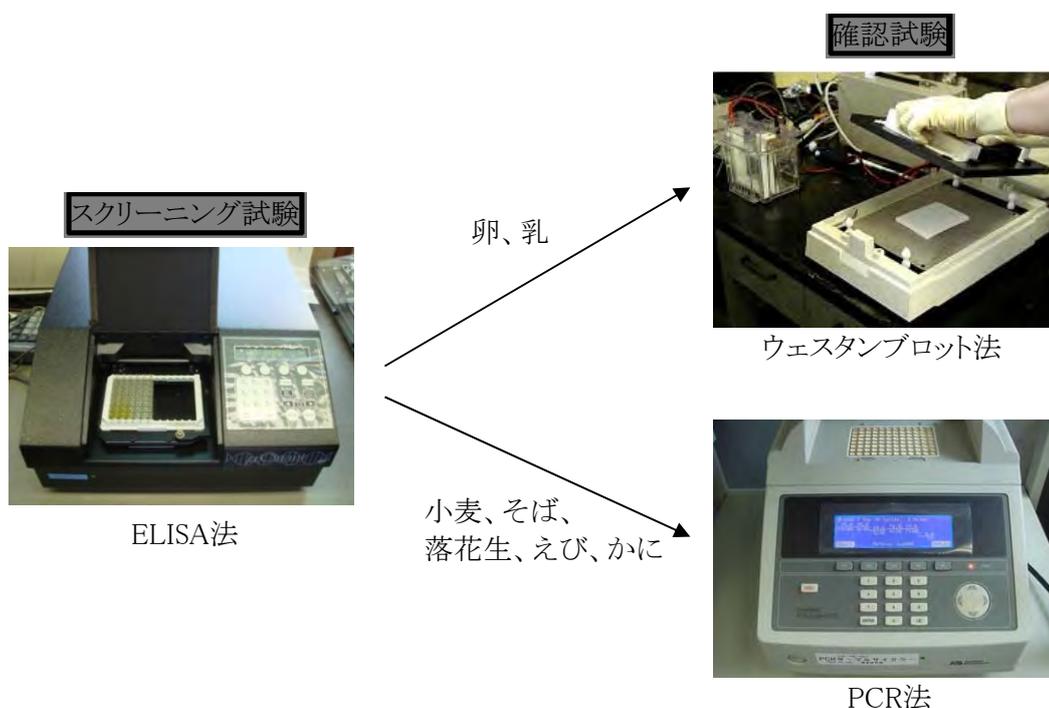
検体名	検体数	陽性数
菓子類	3	0
冷凍食品	2	0
レトルト食品	1	0
たれ類	1	0
生めん	1	0
合計	8	0

#### 「スクリーニング試験」と「確認試験」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング試験で陽性の可能性がある検体を選び出します。今回の検査ではすべて陰性でしたが、陽性の場合、別の検査法で再度陽性の確認を行います。

スクリーニング試験で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング試験で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認試験を行います。

確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を用い、小麦、そば、落花生、えび、かには、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【理化学検査研究課 食品添加物担当】

# 海水浴場水質調査結果(平成30年度)

金沢区の「海の公園」は、市民に親しまれている横浜市で唯一の海水浴場です。5月及び7月に環境省からの通知に基づき水質調査を行った結果を紹介します。



## 1 対象施設及び試料

(1) 対象施設: 「海の公園」海水浴場

(2) 採水日: 平成30年5月7日・8日及び7月2日・3日

(3) 試料: 「海の公園」沖3地点で、1日に2回(午前・午後)採水した海水。4日間で計24試料。

なお、採水は金沢福祉保健センターが環境創造局および公益財団法人横浜市緑の協会の協力を得て行いました。

## 2 検査項目

水質評価項目および参考検査項目を表1に示しました。

表1 検査項目

検査担当	水質評価項目	参考検査項目
福祉保健センター	油膜の有無、透明度	水温、気温、透視度、臭気等
衛生研究所	ふん便性大腸菌群数 化学的酸素要求量(COD)	腸管出血性大腸菌O157 一般細菌数、pH

## 3 検査方法

平成30年3月29日付け環水大水発第1803293号(環境省水・大気環境局水環境課長通知)「平成30年度水浴に供される公共用水域の水質調査結果の報告について」に基づいて行いました。

## 4 検査結果と判定区分

水質評価項目と参考検査項目の水質検査結果は表2のとおりでした。5月7日・8日の12試料の検査結果及び7月2日・3日の12試料の検査結果を用い、環境省通知で定められた方法で報告値を算出しました。その報告値を水浴場水質判定基準(表3)によって「適(水質AA、水質A)」、「可(水質B、水質C)」、「不適」の5段階に区分しました。今年度は、油膜の有無、透明度およびふん便性大腸菌群数の3項目は「適(水質A)」の基準を満たしていましたが、化学的酸素要求量(COD)はいずれの月も「適(水質A)」の基準である「2mg/L以下」を満たさなかったため、判定区分は5月、7月ともに「可(水質B)」となりました。

なお、昨年度5月は「可(水質B)」、7月は「可(水質C)」でした。

表2 平成30年度「海の公園」海水浴場の水質検査結果

検査項目	5月		7月	
	7日	8日	2日	3日
油膜の有無	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>
透明度(m)	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上
ふん便性大腸菌群数(個/100mL)	2未満~6	20~62	6~22	18~58
COD(mg/L)	2.5~2.9	2.3~2.9	2.9~5.2	3.7~5.1
腸管出血性大腸菌O157(/3,000mL)	不検出	—	—	不検出
一般細菌数(cfu/mL) <sup>*2</sup>	4~23	17~36	2~3	7~12
pH	8.1~8.2	8.1~8.1	8.2~8.4	8.3~8.5

<sup>\*1</sup>: 「認められない」、<sup>\*2</sup>: 参考のため検査しており水質基準はありません

表3 「海の公園」海水浴場の環境省への報告値および水浴場水質判定基準

検査項目	環境省への報告値		水浴場水質判定基準				
	5月 (海水浴場開設前)	7月 (開設中)	適 水質AA	適 水質A	可 水質B	可 水質C	不適
水質判定区分	可 水質B	可 水質B	適 水質AA	適 水質A	可 水質B	可 水質C	不適
油膜の有無	無 *1	無 *1	無 *1	無 *1	無 *2	無 *2	有 *3
透明度(m)	1.0以上～1.0以上	1.0以上～1.0以上	1.0以上	1.0以上	0.5以上	0.5以上	0.5未満
最小～最大(平均)	(1.0以上)	(1.0以上)			1.0未満	1.0未満	0.5未満
ふん便性大腸菌群数 (個/100mL)	2未満～62	6～58	2未満	100以下	400以下	1,000 以下	1,000超
最小～最大(平均)	(24)	(26)					
化学的酸素要求量	2.3～2.9	2.9～5.2	2以下	2以下	5以下	8以下	8超
COD (mg/L)	(2.6)	(4.1)					
最小～最大(平均)							
腸管出血性大腸菌 O157 (/3,000mL)	不検出	不検出	—	—	—	—	—
pH	8.1～8.2	8.2～8.5	—	—	—	—	—
最小～最大							

\*1:「認められない」、\*2:「常時は認められない」、\*3:「常時認められる」

(注) 判定については、水質評価する4項目(油膜の有無、透明度、ふん便性大腸菌群数、化学的酸素要求量)を用います。全ての項目が「適(水質AA)」の基準を満たす水浴場の判定は「適(水質AA)」となります。ただし、一つでも満たさない項目があると、その項目の基準を満たす区分が水浴場の判定となります。いずれかの項目が「不適」である水浴場を「不適」とします。

【 理化学検査研究課 環境化学担当、微生物検査研究課 細菌担当 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告 8月

## 《今月のトピックス》

- 風しんの報告数が増加しています。
- A型肝炎の報告が多い状態が続いています。
- 伝染性紅斑の報告が多い状態が続いています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が23件ありました。今後の推移に注意が必要と考えられます。
- 百日咳の報告が40件ありました。今後の推移に注意が必要と考えられます。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈8月期に報告された全数把握疾患〉

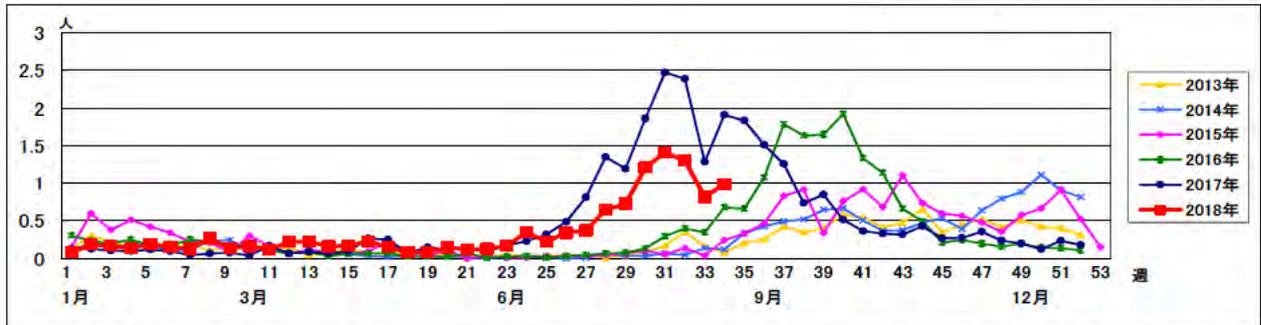
腸管出血性大腸菌感染症	23件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
A型肝炎	4件	水痘(入院例に限る)	1件
デング熱	1件	梅毒	18件
ライム病	1件	播種性クリプトコックス症	1件
レジオネラ症	2件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	3件	百日咳	40件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	9件	風しん	9件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件	—	—

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が20件(うち4件が無症状病原体保有者)、O26の報告が1件(無症状病原体保有者)、O111の報告が1件、O115の報告が1件ありました。
- 2 E型肝炎: 2件の報告があり、いずれも国内での経口感染と推定されています。
- 3 A型肝炎: 推定される感染経路は、国内での経口感染が2件、経口または異性間性的接触が1件、詳細不明の性的接触が1件で、いずれもワクチン接種なしでした。
- 4 デング熱: フィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
- 5 ライム病: 国内での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が1件ありました。
- 6 レジオネラ症: 肺炎型の報告が2件あり、感染経路不明です。
- 7 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が3件ありました。国外での経口感染と推定される報告が1件、国内での経口感染と推定される報告が1件、感染経路不明が1件でした。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 9件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が3件、G群の報告が2件あり、感染経路等不明でした。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 60歳代および90歳代の報告が1件ずつありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が2件(いずれもワクチン4回接種あり)、50歳代の報告が1件、60歳代の報告が1件、70歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種不明)ありました。
- 12 水痘(入院例に限る): 40歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種なし)ありました。
- 13 梅毒: 18件の報告(無症状病原体保有者8件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。国内での感染が17件、国内またはタイでの感染が1件でした。感染経路は、異性間の性的接触が13件、同性間の性的接触が2件、詳細不明の性的接触が3件でした。男性15件、女性3件でした。
- 14 播種性クリプトコックス症: 1件の報告があり、感染地域等不明です。
- 15 バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 2件の報告がありました。1件はネパールでの感染が推定され、1件は感染経路等不明です。
- 16 百日咳: 10歳未満では乳児が4件(ワクチン接種あり2件、なし2件)、小児で16件(ワクチン接種あり11件、不明5件)の報告があり、10歳代で15件(ワクチン接種あり10件、不明5件)、20歳代で1件(ワクチン接種不明)、30歳代で3件(ワクチン接種不明)、40歳代で1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 17 風しん: 検査診断例8件、臨床診断例1件が報告されています。10歳代2件(いずれもワクチン接種不明)、20歳代2件(いずれもワクチン接種不明)、30歳代1件(ワクチン接種なし)、40歳代3件(ワクチン接種あり1件、なし1件、不明1件)、60歳代1件(ワクチン接種不明)でした。

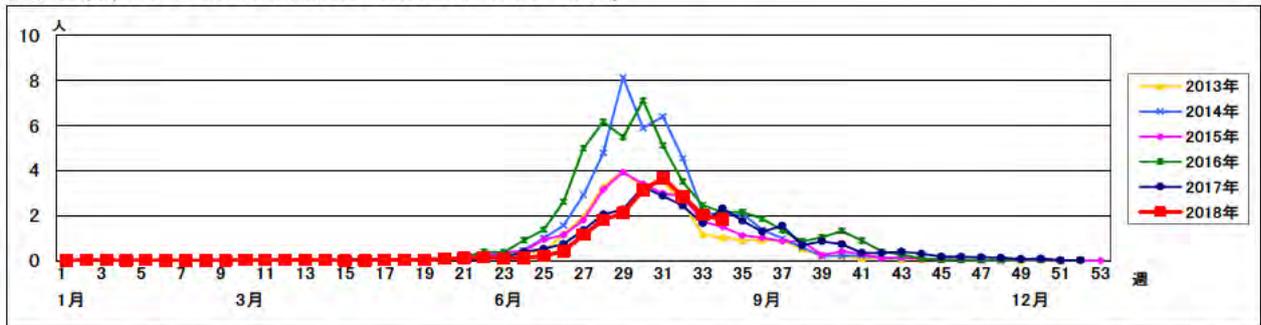
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第30週	7月23日～7月29日
第31週	7月30日～8月5日
第32週	8月6日～8月12日
第33週	8月13日～8月19日
第34週	8月20日～8月26日

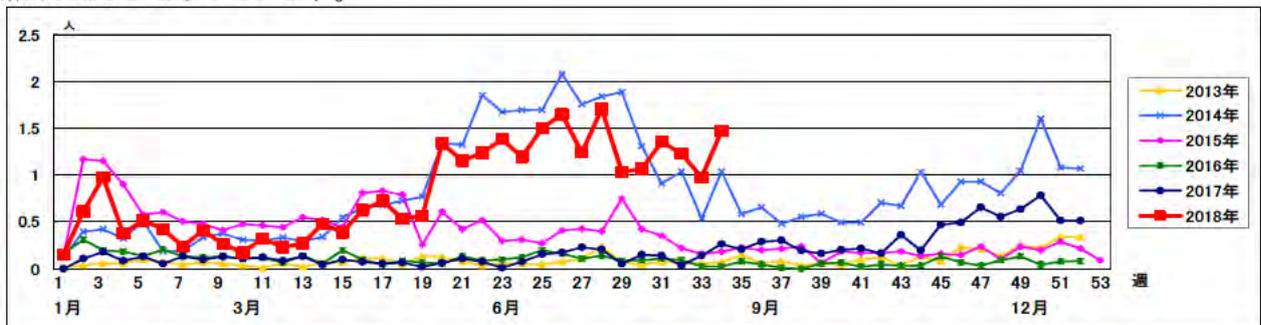
1 RSウイルス感染症: 第27週で定点あたり0.37、第28週で0.65、第30週で1.21と増加傾向となり、第31週で1.41となってピークとなりました。その後は漸減し、第34週で0.99となっています。



2 ヘルパンギーナ: 第26週にて0.42と増加傾向となり、第31週で3.67となってピークとなりました。その後は漸減し、第34週では定点あたり1.81となっています。



3 伝染性紅斑: 2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第34週では定点あたり1.47となっています。



4 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:16件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:1件	淋菌感染症	男性:15件	女性:1件

5 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.50	0.33	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1件		—

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点30件、内科定点5件、基幹定点20件、眼科定点3件、定点外医療機関から搬入された検体は24件でした。

9月7日現在、ウイルス分離7株と各種ウイルス遺伝子27件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(8月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	R S 感 染 症	ア デ ノ 感 染 症 *1	ヘル パン ギー ナ	無 菌 性 髄 膜炎	低 月 齢 発 熱	血 高 サイ ト カイン 症	肝 障 害
インフルエンザ AH1pdm 型			1							
インフルエンザ AH3 型			1							
アデノ 3 型					1					
アデノ 54 型					1					
パラインフルエンザ 1 型	2									
ヒトメタニューモ		2								
RS		2		4						
ヒトコロナ*2		1								
ライノ	1									
ヒトパレコ 3 型									1	
ヒトパレコ 4 型							2			1
コクサッキー A2 型							1			
コクサッキー A4 型	2					3				
コクサッキー A9 型								1		
コクサッキー A10 型	1									
コクサッキー B2 型	1						1			
コクサッキー B4 型						1				
コクサッキー B5 型								1		
エコー 11 型							1			
エンテロ 71 型							1			
合計	1 6	0 5	2 0	0 4	1 1	1 3	1 3	1 3	0 1	0 1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:咽頭結膜熱を含む、\*2:HCov-229E or NL63、HCov-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

「菌株同定」の主な依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌7件、サルモネラ菌2件などとなり、非定点からの依頼では、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、非結核性抗酸菌1件、バンコマイシン耐性腸球菌が1件ありました。保健所からは、腸管出血性大腸菌16件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌4件、インフルエンザ菌2件などとなっています。

「分離同定」の検査は、基幹定点から紅斑熱群・ツツガムシ3件ありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(8月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	7	<i>Enterobacter aerogenes</i> (2) <i>Enterobacter cloacae</i> (1) <i>Citrobacter freundii</i> (2) <i>Pseudomonas aeruginosa</i> (2)	
	サルモネラ菌	2	<i>Salmonella</i> Enteritidis、 <i>Salmonella</i> Stanley	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	6	<i>Enterobacter cloacae</i> (1) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1) <i>Escherichia coli</i> (2) <i>Proteus mirabilis</i> (1) <i>Morganella morganii</i> (1)	
			バンコマイシン耐性腸球菌	1
	非結核性抗酸菌	1	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i>	
	保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter aerogenes</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (3)
腸管出血性大腸菌		16	O157:H7 VT1VT2(11)、O157:H7 VT2(1)、 O157:H VT1VT2(2)、O115:H10 VT1VT2(1)、 O111:H VT1(1)	
バンコマイシン耐性腸球菌		2	<i>Enterococcus faecium</i> van B保有	
インフルエンザ菌		2	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能(2)	
肺炎球菌		1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 15型	
劇症型溶血性レンサ球菌		4	A群TB3264(1)、A群型別不能(1)、G群(2)	
分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関 基幹定点	紅斑熱群・ツツガムシ	全血	2	不検出
		皮膚	1	不検出

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成30年8月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数

平成30年8月の総アクセス数は、141,958件でした。前月に比べ約4%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター\*165.8%、保健情報9.4%、検査情報月報3.8%、食品衛生2.2%、生活環境衛生1.7%、薬事0.8%でした。

\*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

### (2) アクセス順位

8月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」、2位は「大麻(マリファナ)について」、3位は「水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について」でした。10位には、電子パンフレット「熱中症に注意しましょう!」が入り、最近の暑さに対する関心の高さがうかがえます。

表1 平成30年8月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」	12,971
2	大麻(マリファナ)について	6,548
3	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	5,971
4	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	5,762
5	横浜市感染症情報センタートップページ	3,372
6	アシネトバクター感染症について	2,976
7	衛生研究所トップページ	2,863
8	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	2,793
9	EBウイルスと伝染性単核症について	2,371
10	電子パンフレット「熱中症に注意しましょう!」	2,243

データ提供: 市民局広報課

電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/kaisen.pdf>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/chicken1.html>

### (3) 電子メールによる問い合わせ

平成30年8月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成30年8月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
フィリピンのデング熱ワクチンについて	1	感染症・疫学情報課
ポリオ生ワクチンによる麻痺について	1	感染症・疫学情報課

## 2 追加・更新記事

平成30年8月に追加・更新した主な記事は、9件でした(表3)。

表3 平成30年8月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
8月 7日	フィリピンのこどもの定期予防接種について	更新
8月 8日	2018年度蚊媒介感染症サーベイランス結果【速報版】	更新
8月 8日	平成30年 熱中症情報	更新
8月10日	熱中症(熱射病、日射病)を予防しましょう	更新
8月10日	全国の熱中症患者発生状況	掲載
8月17日	全国の熱中症患者発生状況	更新
8月17日	2018年度蚊媒介感染症サーベイランス結果【速報版】	更新
8月22日	全国の熱中症患者発生状況	更新
8月30日	全国の熱中症患者発生状況	更新

【 感染症・疫学情報課 】